

## EX VOTO とナイジェリアでの迫害

大ローマ布教所長  
山口 英雄 Hideo Yamaguchi

## EX VOTO

カソリックを信仰していて、病気を救ってもらったり、願いが叶った時に、その喜びを、大理石の石版や普通の石版に、神への感謝の言葉や祈りの言葉を刻み、街の城壁、教会の洗礼堂、あるいはそれ専用で作られたチャペルに EX VOTO というものを奉納する。特に聖母マリアに救済を祈り、感謝することは多い。そうして刻まれた EX VOTO が壁を飾ったり、壁を一面に覆ったりしている。自分が願い、救いが成就した場合、自分の病んだ所を象って奉納することもある。例えば、心臓を病んでいて、祈りが通じ、その心臓病を救って頂いた場合、ハート型の物を作り、持って行って、それを奉納するのだ。

EX VOTO はラテン語で、“誓いのとおりの”とか、“(感謝または願かけのための)奉納物”という意味を持つ。

イタリアに来た頃、教会に行くと、ハート型のもの、足の型をしたもの、掌の型をしたものなどが教会の一角や、チャペルに沢山飾られているので、一体何だろうかと不思議に思ったものだ。それらが EX VOTO だということが後に分かった。その EX VOTO が沢山ある教会が、パドヴァのサンタントニオ教会、シエナのドゥオーモの洗礼堂などだ。ヴァチカンのサン・ピエトロ教会には一切ない。ローマでそれが多いのは、DIVINO AMORE 教会の壁、トラステヴェレの文部省の前の壁、そして沢山の石版があるのが、プレネステ広場のレンガの壁だ。映画「ローマの休日」で、ローマの城壁にたくさんの石版があつて、そこへオードリー・ヘップバーン扮するアン王女が見学に行ったシーンを思い出す人も多いことだろう。そこにあった石版は今なくなったけれど、その場所は残っている。

ローマのトラステヴェレの文部省の前の壁に貼付けられた石版の内容を見てみよう。「恩寵を受けたために」あるいは「受けた恩寵のために」と書かれ、また、それを略して「PGR」(Per Grazia Ricevuta) と表している。「PGR」の習慣は昔から続いている。特に聖母マリアに関してのものが多い。その中にあるいくつかの例を記そう。「聖処女あなたに感謝する。信仰に心をこめて、あなたに祈った。そして、あなたは私を救ってくれた。」「恩寵は容認される言葉だ。寛大な心を持ち、巨大な慈悲を持つ聖母よ、ありがとう。」ダンテの『神曲』の「天国篇」の言葉を書き記したのものもある。「聖処女よ、あなたの息子の母なる女性、憤み深く、創造物の中で、一番高貴であり、私に預かった最高のものであり、感謝する。そう、私に下さった最高の恩寵に感謝する。」

今、この壁にある石版は数百個に達する。古いものは1950年代、時間が経って、文字が消えかかって読めないものもある。壁の1カ所には聖母マリアを祀った祠がある。そこには花をさすような鉢もある。そこには花束があり、ろうそくがあり、明かりが灯されている。その壁には隙があり、「みなしごにパンを」と記され、お供えをするように勧められている。

面白いので、さらに石版を読んでみよう。「聖母マリアが偉大であることを私の文では表しきれない。」「私はリミニから、あなたが偉大であるという観念を持って来た。だから私が行く所、何処でも護ってね。」「純粋な聖母マリアよ、私の願いが届

いたのか、私は救われた。」「あなたのマントの下で、救いを探し、守護と救済を得た。」「有り難う聖母マリア」「聖処女ありがとう」「天の母よありがとう」「我々の優しき母」「天使の中の優しき女王ありがとう」。これらに関してルカの福音書(11章9節～10節)の文を引用しよう。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」(共同訳)

では、プレネステ広場の方に行ってみよう。ここは都心部に近い郊外で、都心周辺部だ。このあたりの建物は計画性もなく無秩序に建てられた感じだ。その壁に野放し状態で多くの石版が嵌められている。それらの中心には二つの祠があり、一つは聖母マリアのモザイクの絵。もう一つは普通の石版に聖母マリアの絵。その棚の下には火が灯され、沢山の生花が置かれている。そこにはバラの花、各種ランの花、菊の花、ゼラニウム、マーガレット、キンセンカ、フクシアなどの花が無造作に並んでいる。ここに掛かっている石版の文章の内容は他の所と大同小異だが、少し違うものを紹介すると、「空にいる母、聖女、その近くで私の心は歌う」。一番美しいと思われる石版には全裸の絵を描き「聖女に祈る」と書かれている。祠の下には、ここで一番古い石版があり、訪問者に訴えているようだ。「主よ、私を祝福し、私を守って下さい。あなたの顔を見せて下さい。さらに、平和を。」

## ナイジェリアでのキリスト教徒への迫害

ところで、キリスト教徒たちがクリスマスを迎え、家族でその喜びを分かち合っている時、とんでもない事件がアフリカのナイジェリアで起こっていた。

今まで、聖エジディオ共同体主催の「世界宗教者の平和の祈りの大会」で、アフリカのナイジェリアはキリスト教徒とイスラム教徒が非常に仲良く、互いに立て合い、相互理解を進め、共存共栄していると公表されていた。それが急変して、2011年12月25日のクリスマスの日に、イスラム教の一派ボコ・ハラム(BOKO HARAM)によって49人が殺され、数十人が負傷したというのだ。何台かの自動車爆弾で、いくつかの教会が破壊されたからだ。ローマではクリスマスの日と翌日聖ステファンの日は祭日で新聞などは休刊日だった。一般の人がほとんど知らないことを、ローマ法王は26日のアンジェリスで公表し、一般の人はたいへん驚いた。

ボコ・ハラムの集団は、情報分析家によると、アル・カイダとつながりがあるという。ボコ・ハラムは2009年に結成されたのか、その年よりナイジェリアで活動を展開している。急進的闘争家である彼らは浮き上がったテロリスト集団だ。ボコ・ハラムとは現地のハウサ語で「西欧教育禁止」ということを意味している。イスラム教徒の穏健派に対しても生温いと非難攻撃している。イスラム穏健派の人はボコ・ハラムに対して一歩距離を置いている。しかし、それを明らかにすると、攻撃の的が彼らに回ってくる。このボコ・ハラムのテロリスト達は国の

(15頁へ続く)

ソウルでの東亜宗教学術 FORUM に参加・発表

金子 昭

1月6日、7日の2日間にわたり、韓国のソウルにある円光大学ソウル事務所で、東亜宗教学術 FORUM (日韓宗教研究 FORUM2011 年度研究報告会) が開催された。テーマは「無縁社会と宗教者の役割：日韓の状況」で、日韓の宗教研究者5名が研究報告を行い、それに基づいて討議が行われた。このテーマは、私もメンバーとして関わっている科研費による基盤研究(C)「無縁社会における宗教の可能性に関する調査研究」(研究代表：宮本要太郎・関西大学教授)の中間発表もかねて設定されたものである。参加者は日本側8名、韓国側9名の計17名。本学からは、人間学部の神田秀雄教授と私が参加した。

発表者とその題目は次の通り。

中西尋子 (関西学院大)：在日韓国人社会における在日大韓基督教会の役割

申 光澈 (韓国・韓神大)：多文化社会における宗教

白波瀬達也 (大阪市立大)：最貧困地域における宗教者の支援活動—大阪・釜ヶ崎を事例に

李 元範 (韓国・東西大)：無縁社会と宗教文化交流—韓国両国の宗教社会における同質性と異質性—

金子 昭 (天理大)：“無縁”を“有縁”化する仏教ヒューマニズムの展開—東日本大震災における台湾・仏教慈済基金会の救援活動を通じて—

総合討議では、韓国側から韓神大学の柳誠旻教授、日本側から金光教羽曳野教会の渡辺順一会長がそれぞれコメントを行った。

「無縁社会」とは、「人と人とのつながりが希薄になった結果、お互いを“無縁”とみなしてしまう社会」のことである。「無縁社会」という言葉そのものは、現在のところ、日本においてのみ通用しているものだが、これが意味する状況は日韓に共通する社会現象である。今回の研究報告会では、とくに国籍(あるいは国境)を超え、縁が断ち切れて寄り添なき状態になった人々を、宗教者がさまざまな形で救援・支援している状況が紹介され、また、そのあり方をめぐって活発な意見交換が行われた。

日本側の発表では、中西氏が在日韓国人へのキリスト教(大韓基督教会)の関わりにおける世代間の相違について触れ、一方、白波瀬氏はホームレス伝道を行っている「布教型キリスト教」の事例として韓国系プロテスタント教会の活動を紹介した。また私(金子)は、東日本大震災における台湾の仏教団体(慈済基金会)の大規模救援について、6月に取材した結果などを元に調査報告を行った。

韓国側の発表では、申氏は韓国で近年増加している移民(主に中国や東南アジア)へのキリスト教や仏教の支援システムとその実際及びその問題点について報告し、李氏は昨年末に日韓で同時刊行された『越境する日韓宗教文化』(北海道大学出版)の紹介を通じて、両国の宗教が国境を超えて絶え間なく流入し、拡大し受容されてきた状況について、その分析を行った。

意見交換においては、同じキリスト教でも、カトリックは多民族型の教会になるのに対して、プロテスタントは民族別教会を形成する傾向が日韓に共通してあること、また韓国固有の間

題として、同じ民族でありながら全く異なった政治的・文化的環境で育った北朝鮮からの脱北者への支援も、多文化社会教育のプログラムに入れて考える必要があることなど、種々の興味深い知見が得られた。

なお、この東亜宗教学術 FORUM は、現在、諸般の事情で休止状態にある東アジア宗教文化学会の再開に向けて開催されたという意味もあり、研究報告会とともに運営委員会も開かれ、韓日宗教学術交流の中国語圏への拡大、及び次年度の研究報告会の開催について討議が行われた。



東亜宗教学術 FORUM 会場 (円光大学ソウル事務所) にて

第 244 回研究報告会

12月22日、金子珠理所員が「家事労働をめぐる近年の動向と「梅棹家庭学」と題して発表した。先ず、2011年6月にILOが第100回年次総会において採択した、第189号条約「家事労働者のためのディーセント・ワークに関する条約」の意義が解説され、その上で、日本における条約の適用可能性について、介護労働者の労働実態に焦点を絞って考察が行われた(『グローバル天理』本号の連載「現代ジェンダー論展望」も参照)。

後半は、こうした家事労働者の問題を、女性学の主要テーマの一つである「主婦論争」の文脈から捉え返す試みであった。特に、第1次主婦論争(1955～1959年)において、梅棹忠夫氏は文明論やテクノロジーの視点から、主婦役割を全面的に否定する独自の主婦論を展開し、当時孤立したが、半世紀後の今日、梅棹論をいかに評価し批判すべきか、検討が加えられた。またテクノロジーの進展と市場化により家事は軽減されるという梅棹氏の予測は当たったのか否か、さらに日本は今後、外国人の移住家事労働者を受け入れる方向に進むのかどうか等が議論された。

(9頁からの続き)

軍隊や国家警察に対しても攻撃を仕掛けている。その理由は、彼らは「キリスト教徒を守っている」からだという。ナイジェリアのある国会議員は「テロリストに対する戦いに敗れたら、国は崩壊してしまうだろう」と言っている。

ボコ・ハラムの報道官アブドゥル・カダ (Abdul Qada) は、ナイジェリア北部のキリスト教徒に対して「3日以内に退去せよ。さもなければ皆殺しにする。」と最後通告を発した。幸いに今もって、最後通告が実行されたという報はないが、2012年の元旦のアンジェリスで、ローマ法王はテロ行為を即座に停止するように訴えた。